

つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし

2020 CSR レポート

コープみえの事業、社会、環境活動の報告書です。
コープみえSDGs宣言に沿って2019年度の活動をまとめました。



コープみえキャラクター
みえつみい



2020年CSRレポート コープみえ
発行月：2020年6月
お問い合わせ先
〒514-0009
三重県津市羽所町379番地
生活協同組合コープみえ 機関運営部
TEL 059-271-8507 FAX 059-222-5217
ホームページ <http://www.coop-mie.jp>

コープみえ 検索



資源や環境に配慮して、エコインキと再生紙を使用しています。
このCSRレポートは、カーボンオフセットされています。
☆CSRレポート1部のCO₂排出量は約266gです。



コープみえの事業・組織、組合員活動、社会貢献活動・環境の取り組みについて報告しています。
報告対象期間を2019年3月21日から2020年3月20日の期間とし、コープみえの活動のほか、関連する東海コープ事業連合の活動、情報を含んでいます。

コープみえの理念

つながりあう安心 笑顔が輝く 暮らし

人が地域で協同する暮らしづくりをすすめ
平和な社会を未来に引き継いでいきます



TOP MESSAGE CSRレポートの発行にあたって

平素より格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

関係者の皆様にこのCSRレポートを通して、コープみえの1年間の社会的な活動についてご報告いたします。

私たち生活協同組合(生協)は、消費者が暮らしの全般にわたって協同の輪を広げ、暮らしの願いを実現し、暮らしをよりよくしていくことを目的とした助け合いの組織です。コープみえは「つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし」の基本理念のもと、組合員の暮らしの向上と、誰もが安心してらせる社会をめざして、さまざまな事業や活動と運動をすすめてまいりました。また、昨年(2019年)の第17回通常総代会においては、コープみえ「SDGs行動宣言」を採択し、誰一人取り残さない持続可能な社会につながる多様な取り組みを、組合員をはじめ、地域の皆様とともにひろげすすめてきています。

平和な社会を未来に引き継いでいくため、暮らしの願いに応える取り組みを一層強めていく所存です。引き続き皆様のご指導ご援助をどうぞよろしくお願い致します。

2020年6月
生活協同組合コープみえ
すずき としひこ
理事長 鈴木 稔彦



コープみえの事業

宅配事業

毎週1回、決まった曜日に指定された場所に商品をお届けしています。商品の受取方法は、暮らしに合わせて、グループ購入、コープ宅配、ステーション購入から選んでいただけます。

商品の主な仕入先は東海の3生協(コープあいち、コープぎふ、コープみえ)で作る東海コープ事業連合です。



店舗事業

みやがわ店(伊勢市)とまつさか店(松阪市)の2店舗があります。組合員にとって必要なお店、私のお店と思ってもらえる店づくりをすすめています。



福祉事業

「安心」「笑顔」「健やか」「想い」「共有」を大切に、利用者一人ひとりに合った自立をめざしたサービス提供に心がけ、福祉サービスをすすめています。



暮らしの事業

暮らしに役立ち、より豊かにするために、夕食宅配、葬祭、宅配灯油、共済、すまいの事業、その他の斡旋サービス事業などをすすめています。



■組織の概況(2020年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみえ
設立	2003年3月21日
本部所在地	三重県津市羽所町379番地 TEL 059-271-8500(代表) http://www.coop-mie.jp
事業エリア	三重県一円
組合員数	196,516人
出資金(10千円)	43億1,005万円
加入率	26.2%
役員	理事23人 監事5人
職員数(出向者含む)	ゼネラル 240人 ジョブ 253人
子会社 スマイルサービスみえ	事業高 1億6,229万円(1月末現在)

■事業所・事業内容

共同購入事業 9センター	桑名、四日市、鈴鹿、津宅配、津南、松阪、紀北、伊勢、伊賀
ステーション	全県34ヶ所
店舗事業2店舗	まつさか店(松阪市)、みやがわ店(伊勢市)
福祉事業1事業所	福祉サービスセンター松阪(松阪市) 事業内容: 通所介護事業、居宅介護支援事業、訪問介護事業
その他事業	共済事業(受託)、夕食宅配事業、斡旋サービス事業

■経営状況 2019年3月21日~2020年3月20日(単位:千円)

総事業高	208億6,337万円
供給高合計	202億4,243万円
利用事業収入	1,975万円
福祉事業収入	3,886万円
その他事業収入	5億6,233万円
事業総剰余金	48億2,607万円
事業経費	45億1,614万円
事業剰余金	3億992万円
経常剰余金	3億8,435万円

■関連組織紹介

生活協同組合連合会 東海コープ事業連合	株式会社 東海コープ 安全運転センター	株式会社 スマイルサービスみえ
東海3生協(コープあいち、コープぎふ、コープみえ)が出資し、会員単協の商品、物流、情報システム等を合同し、事業を推進しています。	東海3生協、東海コープ事業連合が出資し、損害保険代理事業、生命保険募集に関わる業務、運転実技研修の実施、教材の企画制作、運転教育に関わる受託業務等を行っています。	コープみえの子会社として、施設・設備の保守・管理・清掃業務、物流センターの管理業務等を行っています。

SDGs行動宣言 SDGsの達成に向けて

コープみえは、2019年度基本方針の柱の1つとして「SDGsの達成に向けて」を位置づけ、コープみえSDGs行動宣言をもとに活動をすすめてきました。



コープみえSDGs行動宣言

～SDGsを実現するための7つの取り組み～

エスディーゼズ
SDGs(持続可能な開発目標)を組織と地域の中にひろげあい推進します。
私たちコープみえは、“つながりある安心 笑顔が輝く暮らし”の基本理念のもと、組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し、これまでもSDGsに関わる諸課題に取り組んできました。これまでの運動や活動の価値をみんなで確かめ合い、引き続き協同の力で、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献していきます。

<p>持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を見直していきます P5～P6</p>	<p>地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します P7～P8</p>	<p>世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します P9</p>
<p>核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します P10</p>	<p>誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します P11～P14</p>	<p>健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動をすすめます P15～P16</p>
		<p>ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します P17</p>

エリア会で「SDGs(持続可能な開発目標)」学習会を開催

4つのエリア会で学習会が開催されました。全世界が共通目標に取り組むチャレンジ計画ですが、“自分ごと”として捉え、2030年のあるべき姿を描きながら、最初の1歩を踏み出すことを確認しました。

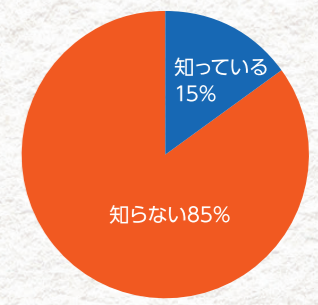
参加者からの感想

- ・2030年のあるべき姿を想像しながら、目標を設定する“バックキャストイング”の考え方がよくわかりました。
- ・SDGsを広くお知らせする広報活動が大事だと思います。
- ・身近な話題で、SDGsが“自分ごと”としやすかったです。



聞いてみました!「SDGs…知っていますか?」

「商品・くらしの活動交流会」の3会場で、来場された組合員のみなさんに聞いてみました。
結果は、ほとんどの方が“知らない”“はじめて聞いた”でした。また、「地球温暖化」や「プラスチックごみ問題」「食品ロス削減」など、不安や関心があるといった声がたくさん聞かれました。



SDGsとは

SDGs(エス・ディ・ジーズ)とは、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(行動計画)」に記載された、国際的な取り組み目標である「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略です。持続可能な世界を創出するために、2030年までに全ての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取り組み内容、取り組みの成果を計るための232の指標で構成されています。



17の目標とは

- 目標 1：貧困をなくそう
- 目標 2：飢餓をゼロに
- 目標 3：すべての人に健康と福祉を
- 目標 4：質の高い教育をみんなに
- 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 6：安全な水とトイレを世界中に
- 目標 7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- 目標 8：働きがいも経済成長も
- 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標 10：人や国の不平等をなくそう
- 目標 11：住み続けられるまちづくりを
- 目標 12：つくる責任つかう責任
- 目標 13：気候変動に具体的な対策を
- 目標 14：海の豊かさを守ろう
- 目標 15：陸の豊かさを守ろう
- 目標 16：平和と公正をすべての人に
- 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう



メーカー、生産者との パートナーシップ

産直の取り組みや産地体験、学習を通じて組合員と生産者の交流を深めています。



お米づくり田植え・収穫体験

組合員親子がお米づくりの体験を通じて、お米の大切さ、食文化について学べるようJA津安芸とJAいがふるさとの交流田で毎年開催しています。

田植え体験では、親子が田んぼに入り、生産者の方に声をかけていただきながら、まっすぐになるよう苗を植えていきました。

収穫体験では、稲刈りでカマを使うのがはじめての子どもたちも最初は戸惑っていましたが、すぐに要領を得てきれいに刈れるようになりました。

参加者の声

田んぼにはいろいろな生き物がいて、それらにも役割があるのだな、と思いました。泥が気持ちよかったです。普段できない体験で楽しかったです。



みんなでお米を食べよう!料理会

秋には、お米づくり体験の参加者を対象に、「みんなでお米を食べよう!料理会」を開催しました。

子どもたちが料理づくりを体験しながら、食べること、調理することの楽しさや大切さを考え感じられるように「特別栽培米三重のコシヒカリ」と「特別栽培米 和(なごみ)」の炊きたてごはん、大根のお味噌汁、白菜のお漬物、マシュマロムースを作りました。



産地工場見学



○下津醤油の産地工場見学会
「醤油のできるまでを学習しよう!」
作っている行程やもろみを搾った搾りカスも捨てずに再利用されているなどわかりやすく教えていただきました。夏休みの自由研究にしよう、子どもたちは熱心にメモをとっていました。



○小杉食品の産地工場見学会
「納豆の工場見学と納豆作り体験」
大豆を育てる生産者さんのお話や納豆ができるまでのお話を聞いたあと、工場内を見学、その後、親子で納豆作りを体験しました。

うなぎ資源対策協力金の取り組み



ニホンウナギは、シラス資源減少から「絶滅危惧種1B類」に指定されました。国産ウナギを継続的に利用できるように、2017年度より鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会と2018年度より地元産(愛知、三河一色)の愛知県養鰻漁業者協会へ寄付する取り組みを行っています。



ウナギ対象商品1点購入で3円の寄付金とし、集まった寄付金は、うなぎ放流活動等の資源対策の活動につながっています。

19年度寄付総額 (東海3生協)
376,941円



エシカル消費の 取り組み

人や環境に優しく、誰かの笑顔につながる消費をすすめています。



北海道野付(のつけ)のお魚を増やす植樹活動

野付の海を守りながら「育てる漁業」に転換し、資源管理や稚魚の放流に加え、森から海を再生しようと組合員とともに植樹活動に取り組んでいます。

北海道野付漁協にて、東海3生協の職員研修が行われ、コープみえから3人が参加し、別海町コープの森で植樹活動を行いました。

職員の感想 松阪センター 中村 雄喜

山と川、海はつながっており、山が荒れると川が荒れ、それが海につながると聞いて、コープの森はその大きな一歩だと実感しました。何年後かに私が植樹した白樺の木が育っているかを見に行きたいと思いました。



浜のお母さん料理交流会

野付漁協・北海道漁連のみなさんに三重県にお越しいただく「浜のお母さん料理交流会」を毎年開催しています。

北海道野付漁協で取り組みが続いている「お魚を増やす植樹活動」について

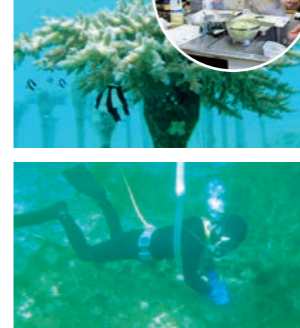
学習し、野付漁協女性部のみなさんに教わりながら「はたてご飯や鮭のちゃんちゃん焼」など、海の幸の献立を作りながら交流を深めました。



サンゴの植え付け資金の贈呈式&恩納村(おんなそん)「海人の料理交流会」



沖縄の海では地球温暖化の影響により、サンゴの白化現象がすすんでいます。コープみえは、コープぎふ・あいちと共に、サンゴの植え付け活動による里海づくり活動を毎年すすめており、4月にサンゴの植え付け資金の贈呈式がありました。



また、恩納村「海人の料理交流会」は、この取り組みを多くの組合員に知ってもらい、産地の漁師さんたちとの交流の場となるよう毎年開催しています。

19年度サンゴ植樹資金
サンゴ338本 948,619円

環境にやさしい商品利用の取り組み



持続可能な生産に配慮されたコープ商品の取り扱いをすすめています。

森の資源を守るFSC認証商品、水産資源のMSC認証商品や環境保全につながるレインフォレスト・アライアンスやオーガニック(有機栽培)、CFP(カーボンフットプリント)商品等の利用普及をすすめています。





環境保全活動

森の保全活動や子どもたちの体験学習を通じて環境を守る取り組みをすすめています。



コープみえの森 保全活動

津市美杉町上多気にあるコープみえの森で、三重県、津市、みえぎょれん、中勢森林組合、コープみえ役職員が参加し、森を育てるために植樹した木々の下草刈りを行いました。海の環境にも栄養豊富な森からの水が必要です。森と海の環境を守るための保全活動を定期的に行っています。



森の環境 体験・学習企画

地域の自然を活用した体験や学習を通して、中山間地の問題や森のもつ大切な役割について子どもたちが体験しながら学びました。



参加者の声

丸太切りやお箸づくりはとても良い思い出になりました。木の音の出すハーモニーの優しさに感動しました。子どもたちも木に触れ、良い体験をさせていただきました。

環境活動寄付金贈呈式ならびに環境活動団体交流会

環境寄付活動は、環境団体への寄付を通して地域の環境活動に寄与していくことをめざしています。2019年度は、地域で環境活動に取り組まれているNPO法人や市民団体、学校や幼稚園、保育園、障がい者施設など合計26団体から申請がありました。



贈呈式では、寄付先8団体のみなさんへ贈呈総額458,186円の寄付金目録をお贈りし、団体のみなさんより寄付金の活用事例報告をいただきました。

キッズエコフェア

春と秋の年2回、三重県環境学習情報センターで物を大切に作る気持ちを育もうと開催される間伐材を使ったマイ箸づくり。子どもたちは、初めて使うカンナで懸命に木を削り、マイ箸ができあがると、とてもうれしそうでした。エコについて考えるきっかけになりました。



地球温暖化防止活動

ISOの取り組みをすすめ、CO2排出量等の削減やリサイクル、廃棄物削減を行っています



福祉サービスセンター松阪の太陽光発電

ISOの取り組み (EMS、環境マネジメントシステムの活動)

○環境活動パフォーマンス報告

コープみえは、ISO14001規格にもとづき環境負荷低減の取り組みを行っています。

また、組合員や地域・諸団体とともに、生物多様性保全、地球温暖化防止に向けた環境活動をすすめています。

日常的な省エネ活動や、夏場のエコスタイル、室温の温度管理、ノー残業デーやライトダウンの実施に取り組んでいます。

エコセンターの紹介

エコセンターは、2016年に稼働し、コープぎふ・コープあいち・コープみえと東海コープで、循環型環境社会の実現への貢献をめざしリサイクルを推進しています。

配送センターで回収している使用済みの商品案内やたまごパックを集積・圧縮して、環境資源として出荷しています。



	2017年	2018年	2019年
商品案内書の回収	2,045t	2,228t	2,147t
内袋の回収	35,2t	43t	34t

エコファミリー

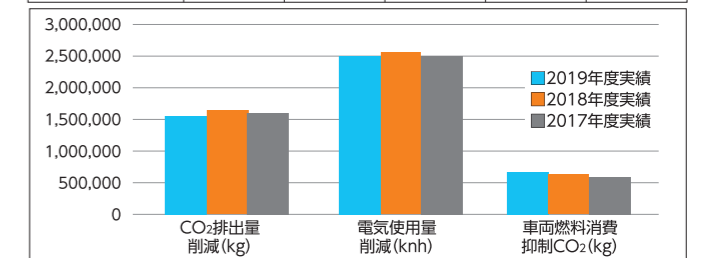
エコファミリーは、組合員が家庭や身近な場所で取り組める環境活動として、500人を超える組合員が登録しています。

自宅で環境に配慮した取り組みを実施し、CO2排出量削減などが見えるように記録を付けます。また毎月「エコファミリー通信誌」を登録組合員にお届けし、組合員どうしの情報交換を行っています。

2017年度	2018年度	2019年度
544人	538人	516人

◆CO2排出量削減に向けた環境負荷低減の取り組み

	2019年度実績	2019年度計画	計画比	2018年度実績	2017年度実績
CO2排出量削減(kg)	1,562,012	1,695,398	92.1%	1,686,788	1,663,777
電気使用量削減(kwh)	2,517,074	2,591,931	97.1%	2,591,931	2,521,246
車両燃料消費抑制CO2(kg)	709,481	701,689	101.1%	693,215	699,059



アルミ付き紙パックの回収・整理・リサイクルの活動を続けて10年!

伊賀センターでは「伊賀地区 環境(委)グループ」の組合員が、宅配などで回収されてきた酒パックを仕分け・整理し、酒パックのリサイクルが可能な古紙回収業者に送り出す作業をしています。

この取り組みが始まって10年。この間に送り出した酒パックの累計は約1,317kgになりました。

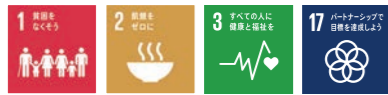


エコ川柳

エコ川柳は、家庭や身近な場所で環境保全活動をすすめるエコファミリーメンバーの組合員から寄せられました。



- ・エコ生活で ムダを減らして イイ気分
- ・コンセント 使わないなら 抜いておく
- ・今年こそ 物増やさずに 断捨離を
- ・SDGs 私のテーマは 何だろう



生活困窮支援・ユニセフ

誰一人取り残さない世界をめざして、生活困窮者支援活動やユニセフの活動をすすめています。



「生活困窮者対策支援事業の連携に関する協定」の締結式

津市社会福祉協議会とコープみえの間で、「生活困窮者対策支援事業の連携に関する協定」の締結式が行われました。

この協定は、コープみえが組合員から受けた良質な返品食糧品の無償提供を行うことで、津市社会福祉協議会の生活困窮者対策支援事業の一助となり、誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざすことを目的としています。

助け合いと協同の精神を大切に、こうした活動への参加を今後も積極的にひろげていきます。

◆生活困窮支援の協定一覧

- ・津市社会福祉協議会 ・伊勢市社会福祉協議会 ・鈴鹿市社会福祉協議会
- ・四日市市社会福祉協議会 ・みえ医療福祉生活協同組合

さんきゅう食堂

一昨年に開店した「さんきゅう食堂」は、四日市羽津地区まちづくり推進委員会のみなさんと、四日市エリア会、コープみえが運営しています。独居、個食等の方が定期的で大勢の方と食事を楽しんでもらう場を提供し、引きこもり等から外出する機会の提供を行うことを目的に活動を行っています。



©UNICEF_UN0149891_Dejongh

フードバンク

規格外の農産物や賞味期限が短くなった商品をセカンドハーベスト名古屋と協力して、支援を必要としている児童養護施設やご家庭などに無償で提供する活動をすすめています。食品ロスの削減や持続可能な循環型社会づくりをめざしています。



ユニセフ募金

三重県ユニセフ協会では、コープみえの組合員、県内の諸団体のみなさんとともに手を携えて「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」や「ユニセフお年玉募金」にも取り組み、世界の子どもたちに笑顔を届けています。



ハンガーフリーワールド (飢餓のない世界をつくる国際協力NGO)

2019年度「書き損じハガキ回収キャンペーン」では、コープみえの組合員から年賀状の書き損じや未使用ハガキ、その他の回収品を換金。バングラデシュ(南アジア)、ベナン・ブルキナファソ・ウガンダ(ともにアフリカ)の住民が自立できるように支援活動をすすめました。

◆2019年度募金および換金総額

ユニセフ募金 (2020年3月20日現在)	ハンガーフリーワールド換金額
1,113,431円	3,548,100円



平和の取り組み

「核なき世界」の実現をめざし、核兵器や戦争のない平和な社会をめざす取り組みをすすめています。



牛乳パックでつくる第五福竜丸

伊勢市大湊のゴーリキマリンビレッジにて、親子でみんなでのしく平和をつくる!と題し「牛乳パックでつくる第五福竜丸・伊勢と第五福竜丸のお話」を開催しました。

第五福竜丸は1954年にビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により被ばくした遠洋マグロ延縄漁船。牛乳パックで船を作りながら核の恐ろしさや平和の大切さを親子で学びました。



参加者の感想

・子どもの夏休みの宿題の「平和について調べよう」の一つで今回参加させてもらいました。船づくりを通じて子どもにもわかりやすく学べる機会になりました。親にとってもはじめて知ることも多く勉強になりました。

2019年ハート平和行進

「2019年ハート平和行進」が開催され、約140名が参加しました。津市お城西公園を出発し、約1.5kmの行進ではたくさんの黄色い風船が、沿道の人々に平和の大切さを力強くアピールしました。



ピースアクション ヒロシマ・ナガサキ

広島・長崎を組合員と職員が訪れました。被爆の証言をお聞きし、当時の原爆の惨事を想像し、二度と戦争を起こしてはいけないという気持ちを新たにしました。

参加者の感想

・核兵器の恐ろしさを知り、風化させてはいけないという気持ちを再確認しました。



被爆者活動支援募金

2020年NPT再検討会議に向けた取り組みとして、日本被団協の現地での活動支援を目的とした募金で、ヒバクシャ国際署名とともに呼びかけました。ヒバクシャ国際署名は、2019年度17,854筆、2017年度からの累計で約40,000筆となりました。

募金総額	317,060円
------	----------

2019年11月1日～2020年1月31日



地域の見守り・くらしの相談

宅配事業等による地域の見守り活動や市町との見守り協定がひろがり、コープくらしの相談窓口では丁寧な対応をすすめています。

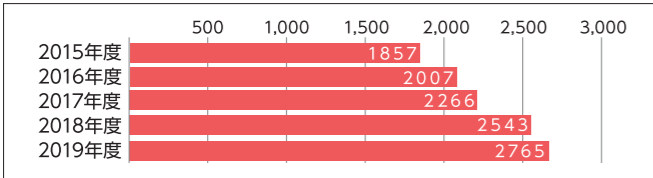


夕食宅配見守り

組合員の要望を受けて、配達エリアの拡大や祝日配達、週4日配達などのサービスの充実、150g以上の野菜が摂取できる「にぎわい御膳」の導入などにより、毎年利用者や食数が増加し、利用の輪がひろがっています。

高齢化がすすむ中、コープみえの宅配や夕食宅配のお届けが定曜日・定時間、同じ職員であることを活かした見守りの活動を実施しています。夕食宅配では、ご利用者の緊急連絡先をあらかじめ登録していただき、異常があった場合は指定の連絡先に確認しています。

◆夕食宅配食数の推移(1日あたり食数)



葬祭事業・宅配灯油

葬祭サービス「まどか」は、組合員の立場になってすすめ、「エンディングノートで考える終活」の学習会などを開催しています。また、宅配灯油は、自宅まで配達し、スタンドまで行けない高齢者の方などに喜んでいただいています。

コープくらしの相談窓口

開設から2年が経過し、依然として高齢者からの相談が多く、全体の約8割を占めています。内容は多岐に渡りますが、福祉・介護、医療制度など行政機関での手続き、土地や家屋の相続など法律相談に関するものが全体の約7割を占めています。

2019年度は、三重消費者市民ネットワークみえや三重県行政書士会、東海労働金庫とのつながりなど、相談内容に適した相談に応じられるように協力関係をひろげてきました。また移動が困難な組合員からの相談に対しては市町の地域包括支援センターや社会福祉協議会などから訪問を行っていただいたケースも多数ありました。



相談件数(開設から2年間)
534件

相談者の声

小さな町なので、変な噂になるのが心配で身内のことで行政にも相談に行けず困っていましたが、「くらしの相談窓口」ができたので良かったです。

多気町との「高齢者等の見守りと支援に関する協定締結」

高齢者・障がい者・子どもなど誰もが住み慣れた地域で安心してくらし続けられるまちづくりを目的に、各市町と見守り協定が締結されており、多気町で13市町目となりました。



◆協定締結市町一覧

- ・四日市市・亀山市・伊勢市・津市・多気町・鈴鹿市・名張市
- ・度会町・尾鷲市・松阪市・東員町・桑名市・明和町



地域へのお役立ち安全運転

地域の子どもたちを対象にした交通安全教室の開催や職員の安全運転教育をすすめています。



コープ安全運転教室を美里さつき保育園で開催

大切な子どもたちの笑顔を守りたい...という思いから、美里さつき保育園にてコープ交通安全教室を開催しました。

コープみえの職員で構成されている交通安全教室プロジェクトのメンバーが美里さつき保育園を訪れ、同園の子どもたちへ道路への急な飛び出しが危ないことを人形劇やクイズで伝え、横断歩道の渡り方を一緒に学びました。

交通安全と地域の安全に貢献できるよう、この取り組みを継続していきます。



園長談

わかりやすい内容で、交通安全のルールを声に出して楽しく学べたのできちんと身につけていきたいと思います。

こども110番の活動

地域や子どもたちの安全を願い、2006年より「こども110番」の活動を行っています。特に共同購入事業は、担当者が地域をよく知り、組合員や地域のみなさんと直接お会いする機会が多いという特長を生かして、地域の防犯活動に少しでも力になれるよう行動しています。

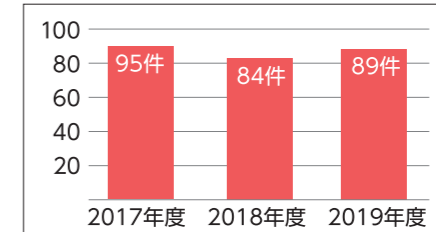
安全運転の取り組み

「安全を第一に考える人づくり」をめざし、安全運転トレーナー会議を各事業所で開催し、交通事故防止運動の取り組みなど、安全運転教育をすすめています。また、生協車両運転認定制度に基づき、職員の能力にあわせた訓練指導を実施しています。

2019年度の全職員の運転記録証明書を取得し、SD(セーフドライバ)カードの取得率は97.4%でした。



◆事故発生推移表





組合員活動

地域で活動する組合員どうしのつながりや、活動に共感しながらひろがりをつくっていくことをすすめています。



エリアコーディネーター活動

県内のエリア毎に、くらしの視点から、組合員の関心に基づいた企画を自主的に開催しています。

ママパパベビーの学習会「わらべうた
マッサージ」教室や「ベビーサイン」体験教室

スクワランオイルを使って赤ちゃんのマッサージを行う教室やまだ話せない赤ちゃんと手を使ってコミュニケーションを取るベビーサイン体験教室など、エリアコーディネーター企画として開催しました。

LPAの会(ライフプランニング活動)

LPAの会は、「保障の見直し活動」をすすめる専門家として、学習会、個人保障相談の企画・運営および講師・相談役として活動しています。さらに保障の見直しにとどまらず、ライフプラン全般の学習・相談活動をすすめています。

ライフプランニング学習会	43企画	246名
出前学習会	14企画	138名

子育て

子育てひろば

コープみえの子育てひろばは、子どもたちを遊ばせながら情報交換したり、おしゃべりを楽しんで、ゆったりとした時間を過ごせる憩いのスペースで、5会場で開催しています。



エリア会活動

エリア会は理事会とつながって消費者問題やユニセフ活動、地域の高齢者支援活動などくらしの問題解決やくらしの向上をめざした活動をすすめています。

みかん山ウォーキング

多気町にある「栽培自慢のみかん」産地のみかん山ウォーキングをエリア会主催で開催し、組合員とその家族、生産者、農協の職員などが参加し交流を深めました。



◆主な組合員活動・生協主催企画

活動	件数・企画数	のべ参加者数
エリアコーディネーター企画	110企画	1,469名
テーマ活動	542件	3,026名
グループ活動	107グループ	19,769名
生協キッチン	83企画	1,539名
商品・くらしの活動交流会	8会場	2,368名

はぴはぴ子育て「子育てコープ」

FM三重「子育てコープ」は2016年4月にスタートし、年々番組の内容も充実し子育てママを応援しています。



東日本大震災支援 災害支援

発災時から被災者に寄り添い、息の長い支援活動をすすめてきました。また、災害に備えて、自治体との災害協定や事前訓練に取り組んでいます。



「夜の森さくら(よのもりさくら)」植樹

コープみえは、東日本大震災と原発事故の被災地である福島県との交流・復興支援を続けています。福島県富岡町にある「夜の森」のソメイヨシノの苗木をいただき、桑名センターにて植樹式を行いました。当日は、富岡町の仮設住宅の自治会長、コープふくしまの役職員、桑名市保健福祉部、コープみえの組合員、役員が参加して行われました。



◆主な震災支援活動

- ・つながりカレンダーをお届けする取り組み
- ・復興公営住宅で開催されている「ふれあいサロン」の訪問
- ・保養企画コヨットin三重
- ・「FOR子ども支援基金」への支援



◆支援募金・応援募金

東日本大震災復興支援募金 (2019年3月21日～2020年2月20日現在)	1,551,672円
夜の森桜植樹募金	63,124円
2019年9月台風15号暴風雨千葉県災害募金	2,007,398円
2019年台風19号被害緊急支援募金	6,077,475円

災害時における福祉避難所の設置・運営に関する協定締結

コープみえは、松阪市と「災害時における福祉避難所の設置・運営に関する協定」について、協定を締結しました。

この協定は、大規模災害が発生した場合に、要配慮者へ松阪市地域防災計画等に基づき、コープみえ「福祉サービスセンター松阪」の一部を福祉避難所として提供していきます。



職員の声 桑名センター 末藤 伶菜

「昨年9月に福島県を訪問しました。見てきたこと、聞いたこと、現状をもっと組合員さんに伝えていきたいと思いました。」



各地の防災訓練に参加

6月に尾鷲市土砂災害総合防災訓練、11月に津市総合防災訓練に参加し、大規模災害に備えた実践的な訓練を行い、災害時の被害の軽減をめざしました。



◆災害時における物資供給及び物資配送に関する協定締結市町一覧

- ・桑名市 ・鈴鹿市 ・尾鷲市 ・津市 ・名張市 ・伊賀市



福祉・助け合いの活動

地域に根ざして、人とのつながりを大切にした福祉事業や助け合い活動を行っています。



第1回「福祉活動寄付金贈呈式」& 「福祉活動交流会」

地域福祉の観点で、誰もが安心してくらすことができる地域づくりをすすめ、さまざまな人の支えとなることをめざし、6つの福祉活動団体へ寄付金471,717円を贈呈しました。
また、福祉活動団体からの活動報告や、参加者どうしで交流会を行いました。

参加団体の声

活動する場の賃料にお金がかかるので、寄付はありがたいです。安定した会の活動に生かしていきたいです。

三重県社会福祉協議会と包括連携協定を締結

三重県社会福祉協議会とコープみえとの間で包括連携協定の締結式が4月に開催され、相互の連携により地域福祉の発展と人材育成に寄与することを目的に、包括連携協定を締結しました。



くらしたすけあいの会

2003年に有償の福祉活動としてスタートした「くらしたすけあいの会」。困った時はおたがいさまの精神で、組合員が行う有償の福祉活動です。高齢の方や障がいのある方、産前産後や子育て家庭、病気やケガでお困りの方などへ掃除、洗濯、買い物、食事づくり、話し相手、託児など行っています。



◆福祉活動寄付金贈呈先団体

贈呈先団体名	贈呈金額
わいわいサロン会(四日市市)	20,000円
三重県がん患者とサポーターの集い(鈴鹿市)	100,000円
音訳グループ 鈴の音(鈴鹿市)	100,000円
音声訳ボランティアグループヴォイスあおう(津市)	100,000円
三重県立くわな特別支援学校(桑名市)	79,217円(寄贈品購入)
父子の会(松阪市)	72,500円

福祉サービスセンター松阪の「ふれあいまつり」

福祉サービスセンター松阪では、自立した日常生活が送れることをめざして、利用者に合わせた機能訓練を行うなど、満足度の向上に取り組んでいます。

地域に根ざした福祉サービスセンター松阪をめざそうと開催された「ふれあいまつり」は、6回目を迎えました。組合員や地域の方々気軽に施設を見ていただく機会になりました。



食の安全・食育

正しい知識のもと、食とくらしの見直しができる学習会や子どもの食育に取り組んでいます。検査センターでは、残留農薬、食品添加物などの検査を実施し、安全品質を確保する取り組みをすすめています。



子ども料理会

初めて料理をする年長から小学3年生までの子どもたちを対象に、作ること、食べることを通して、食の大切さを感じてもらえるように料理会を開催しました。

組合員のキッズ・サポーターが子どもたちと一緒に料理を作り、自信のついた子どもたちは、家族で楽しく食と向き合えるようになりました。

また、12月からは四日市市子ども子育て交流プラザの料理会にも協力しています。

参加した子どもたちの感想

- ・大根を切るのがむずかしかった。
- ・みそしるをつくるのが楽しかった。

食育講演会

毎年好評の名古屋短期大学保育科教授 小川 雄二先生による「食育講演会」。

子どもたちが豊かな人間性をはぐみ、生きる力を身に付けていくには、何よりも「食」が基本。食育は、子育て・教育の基礎であり、子どもたちの成長にとって大切な役割を果たしていることをお話いただきました。



コープまなびのわ

組合員どうしでテーマについて学び語り合い、これからのくらしを考えるきっかけにすることをめざして開催しているコープまなびのわ。

伊勢市社会福祉協議会の出前トークに「まなびのわ・食の安全」を登録し、食べものに潜むリスクや食品添加物をテーマにした学習会が開催され、2日間で110名の地域の方が参加しました。



検査センターの取り組み

東海コープ商品検査センターでは、組合員が利用する商品が安全でよりよい品質の商品であるか、生協との約束どおりに製造されているかを検査しています。また、組合員からの出資金をもとに検査体制と検査設備、検査項目の充実を図っています。

生協で企画している商品の指標微生物や残留農薬、食品添加物、放射性物質などの検査を実施し、安全品質を確保する取り組みをすすめています。

【報告日】2019/03/21～2020/03/20

検査分野	総計	適合率
微生物	9,476	94.7
残留農薬	374	99.7
食品添加物	156	100
アレルギー	267	100
残留放射性物質	110	100
その他	269	問題なし





職場改善・ワークライフバランス

誰もが元気にイキイキと活躍できる職場づくりをすすめています。



イキイキ職場実行委員会

2017年に始動した「イキイキ職場実行委員会」。コープみえで働く職員がもっと輝けるよう、誰もが活躍できる職場、また部署を超えて協力しあえる職場をめざし活動を続けてきました。

2019年も引き続き「どうすればみんながイキイキ働いていけるか」をチーム一丸となって考え、活動しています。

2月には、女性職員交流会を開催。総勢60名の女性職員が部署を超えて日頃思っていることを話し合いました。また、お花見やBBQ大会を開催し、職員どうしで交流を深めるための場づくりをすすめています。



BBQ大会の様子

女性職員交流会参加者の声
 ・参加型の交流会だったので楽しかった。
 ・女性ならではのテーマがよかった。

仕事と家庭の両立体験プログラム

学生が仕事と家庭の両立に理解を深め、将来の働き方について考える体験型プログラムが、三重県の主催で行われました。

コープみえでは大学生2名を受け入れ、職業体験だけでなく、実際に働きながら子育ても両立している職員の家庭に訪問することで、育児の苦労や楽しみも学んでいただきました。



職員の感想 仲間づくり推進課 奥永雄介

就職活動を目の前にした学生を家に招くということで、何をすればいいのか不安でしたが、普段どおりの生活を見せようことにしました。子供たちは最初の方は緊張していましたが、2日間で打ち解けて大学生と触れ合ういい経験ができたと思います。

ダイバーシティとインクルージョンの取り組み

コープみえでは、社会的責任・役割の視点から地域社会とのつながり、地域社会への貢献も踏まえ積極的な障がい者雇用の促進をめざしています。

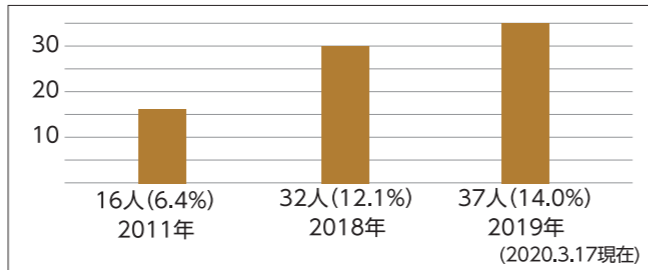
その一環として、地域の特別支援学校から知的障がいのある生徒さんの職場体験実習を受け入れています。

2019年度も、5つの特別支援学校から実習を受け入れ、生徒さんに生協での仕事を体験していただきました。

このような職場体験実習の受け入れも含め、障がいのある方の雇用をすすめ、人を思いやり支え合う、みんなが働きやすい職場環境づくりをめざしていきます。



◆女性職員比率の推移



◆労災事故発生件数の推移

2012年	11件	2016年	8件
2013年	3件	2017年	11件
2014年	8件	2018年	9件
2015年	5件	2019年	10件

内部統制システム

コープみえの機関運営と組織、内部統制・マネジメントの取り組み

コープみえは、生協法をはじめ関係法令及び定款等に則った機関運営や業務執行の強化に努めています。

機関運営と組織

最高決定機関である総代会での決定に基づき理事会、常務理事会で日常執行がすすめられています。理事会の執行を監事会が監査し、決算会計については、監査法人による外部監査を実施しています。

内部統制活動

2019年度内部統制システム推進の基本方針に基づき、内部統制活動をすすめてきました。

基本方針	2019年度の主な取り組み
1. 理事及び職員の職務の執行が、法令及び定款などに適合していくための体制を整備し、取り組みをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の制定、改正の情報収集や遵守監視・確認を毎月開催される内部統制推進委員会で共有してきました。 職員ハンドブックを全職員に配布し、周知・徹底をはかりました。 コンプライアンス及びハラスメントの管理者研修会を実施しました。また意識調査アンケートを実施し、各職場で調査結果の共有とまとめを実施しました。 通報・相談窓口の周知と対応をすすめましたが、内部・外部の相談窓口には相談はありませんでした。
2. 生協の事業および財務の状況の情報開示、理事の職務執行に関わる情報管理を適切に行う体制を整備し実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護、機密情報管理の一般学習会を実施しました。 個人情報、機密情報の台帳メンテナンスや事故発生時の監視と対応をすすめました。 パソコン管理基準にもとづくセルフチェック等を実施しました。
3. 事業の遂行の障害や損失の要因となる「リスク」を管理し、損失予防や緊急事態に備える体制を整備し、実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 重要リスク評価と重点リスクの特定と対応計画を作成し、内部統制推進委員会で確認してきました。 管理者対象に真因の掘り下げや是正処置に関わるリスクマネジメント研修会を開催しました。 事故・ヒヤリハットの事例の集約と予兆への予防対策を実施しました。 災害マニュアル、避難マニュアルの整備やMCA無線、緊急時の連絡網の訓練等が実施されました。
4. 理事および職員の業務の執行が効率的に行われるしくみや体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度の体制変更に伴い、規程集の更新、整備をすすめました。 内部統制に関するセルフチェックを実施しました。 ISO9001の運用のなかで、業務フローの見直しや業務改善等をすすめました。 内部統制の内部監査をMS内部監査と合同で、全部署で実施しました。
5. コープみえの関連する会社等における業務の適正を確保する体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社管理規程にもとづき、関連会社となる(株)東海コープ安全運転センター、(株)スマイルサービスみえの総会への出席や対応をすすめました。
6. 監事監査および監査業務が実効的に行われる環境を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 監事会と代表理事の定期懇談や経営組織監査を実施しました。

CSRレポート第三者意見「コープみえCSRレポート意見交換会」

意見交換会とは

専門性を持つ「CSR検定」の合格者が、第三者の立場からレポートにコメントを述べる場です。

※「CSR検定」とは、企業や組織や市民一人ひとりの倫理と持続性への「気づき」「理解」「決定」を促し、「サステナビリティ志向」を培う検定試験です。



推移をみても社会的なニーズをとらえており、利用者や誠実に向き合っていることが伝わってきます。地元企業への産地工場見学(P5)、食育の子どもキッチン(P16)など多様な分野で、子どもたちへの体験を通じた学びの機会の提供は未来への想いを感じます。

好感が持てた意見として「写真からイキイキと活動している雰囲気が感じられる」「参加者や組合員からのコメントは顔が見える感じがする」などの意見がありました。CSRレポートは専門的な表現が多くなりがちですが、この冊子には親近感を感じます。

今後期待したい意見として「行動宣言とSDGsの関連性を明確化することでSDGs推進の本気度が伝わる」「福祉活動寄付金(P15)は第1回なので取り組みに至る経緯を知りたい」などの意見がありました。こうした意見を活かすことも、より魅力ある情報発信の1つになると考えます。

実績の報告だけでなく、取り組みの背景から目標設定をすることで、将来の目指すべき社会に向けたメッセージになると考えます。協定締結によって地域連携の期待が高まりそうです。連携先と一緒に持続可能な社会に向けた取り組みが地域に広がることを期待します。

CSRレポートへの意見

幅広い取り組みが、コープみえSDGs行動宣言(P3)に沿ってまとめられており、17の目標のアイコンを表記することで目指す方向と多様さも伝わります。夕食宅配見守り(P11)は組合員の要望を課題ととらえてスタートし、食数の

運営:NPO法人Mブリッジ(CSRアドバイザー、「CSR検定」三重会場運営責任者)